

広
報

常陸大宮

2026
号外

高レベル放射性廃棄物の 文献調査の受け入れ 市民の疑問に市長がお答えします

〔大切な視点〕

賛成も反対も「常陸大宮市の未来を 守りたい」という思いから生まれている

賛成例：ふるさとの未来に、子どもが残りたい、帰ってきたいと思えるような仕事や
研究の場をつくりたい

反対例：ふるさとの自然や、イメージを壊したくない

国から高レベル放射性廃棄物の地層処分に係る文献調査の申し入れがあり、熟慮を重ねた結果、文献調査を受け入れることを決しました。その最大の理由は、消滅可能性自治体に位置付けられている本市にとって、この一大国家プロジェクトが本市の存立基盤として十分に機能する可能性があることから、この文献調査を受け入れ、市民の皆様とともに議論の俎上そじょうに載せることにより、その可能性を未来につなぐことであります。

この広報常陸大宮号外は、文献調査について市民の皆様にご理解をいただくため、市民の皆様からお寄せいただいた質問への答えや赤澤経済産業大臣に対して確認した内容を掲載させていただきます。今後は、説明会を開催してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

常陸大宮市長

鈴木 達幸



市長が市民の疑問 にお答えします

経済産業省から申し入れのあった
「文献調査」って何？

文献調査とは

文献調査とは、全国規模の文献・データに加え、地域固有の文献・データを**机上**で調査するものです。次の調査（概要調査）を実施するかどうか検討するための**材料を集める事前調査的な位置づけ**です。文献調査では、**放射性廃棄物の持ち込みや、土地を掘ることなどは一切行いません。**

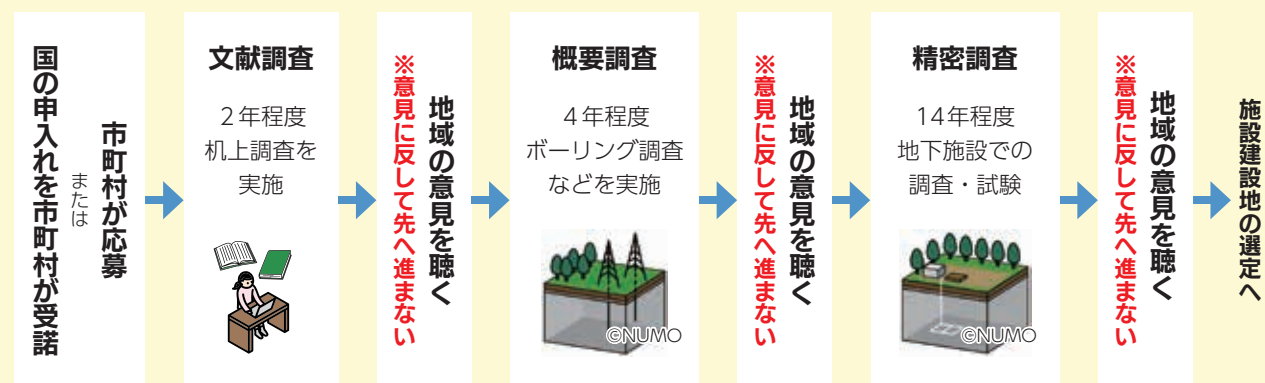
文献調査の内容

文献調査では、まず、地域別に整備されている地質図などの文献・データ、地質などに関する学術論文などを収集し、情報を整理します。その情報をもとに、地層の著しい変動（火山・火成活動、断層活動、隆起・侵食などによるもの）がないこと、最終処分を行おうとする地層に有用な鉱物資源がないこと、地下施設の建設が困難となるような強度の弱い地層がないことなど、施設建設地としての不適切な地層状況がないかを確認します。

文献調査のあとはどうなる？

文献調査を通じて、地域で議論を深めていきます。次のステップである概要調査や精密調査を行う地区、施設建設地を選定するときには、**その都度、地域の意見を聴き、反対の場合は次の調査には進みません。**

高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定までの流れ



Q どうして常陸大宮市なのですか。

A 国（経済産業省）が判断したものです。国では「科学的特性マップ」において、好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い地域であり、最終処分施設の地上施設を設置し得る未利用地が存在することなどを理由としています。

Q 財政的に厳しいから文献調査を受け入れて20億円を受けるのですか。

A 市の財政基盤は他市町村と比較しても、比較的安定しており、文献調査の受入れ判断については、交付金ありきというものではありません。30年後、50年後の常陸大宮市を様々な角度から考え、市の安定した存立基盤として地層処分という国のビックプロジェクトが選択肢の一つになるか否かを明らかにするための文献調査です。

Q 受け入れることで、移住者がいなくなり、過疎化がより進むと思いますがどうなのでしょうか。

A 過去30年から今日までにおいて、人口は7割、事業者数は6割、商業事業者数は4割5分まで減少してきました。この間、私を含め歴代首長は問題意識をもって市政運営に取り組んできましたが、残念ながら結果を残すことはできておりません。地層処分は一大国家プロジェクトです。文献調査を受け入れ、常陸大宮市の存立基盤として議論の俎上（そじょう）に載せることが重要と考えます。

Q 市にとって大きな問題を、市民説明会も開かずに市長が決めていいのですか。

A 文献調査は、処分場建設が可能か否かを既存文献と蓄積データから判断するもので、処分場建設に直結はしません。文献調査期間の約2年間で、市民の皆様への説明会を通じて、地層処分についてともに考え、市民の理解が得られない場合は次のステップに進むことはありません。

Q 受け入れによる農林業や畜産物への影響、風評被害などはどうなのでしょうか。

A 文献調査先行自治体の北海道では、^{すつつちよう}寿都町、^{かもえないむら}神恵内村ともに風評被害はなかったとの見解を示しています。また、最終処分場を受け入れた場合の物理的影響については、現在東海村で高レベル放射性廃棄物のガラス固化体（約350本）が地上保管されておりますが、農業やその他産業に影響があるとの話は聞いておりません。

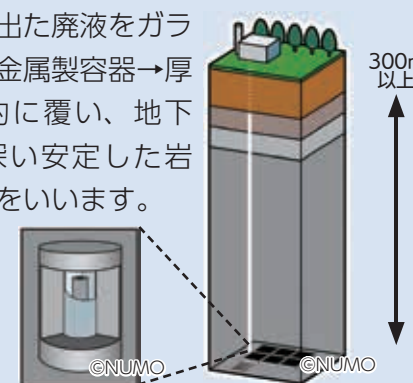
Q 10万年の地層処分という、想像もつかない未来の世代まで責任を負わせていいのでしょうか。

A 誰かが判断しなくてはならないことだと思っています。原子力発電にともなう高レベル放射性廃棄物は既に存在しており、処分場がなければ現在のように、相対的リスクの高い地上保管しか方法がありません。将来世代に負担を先送りしないためにも、現世代の責任でその解決策を議論し、実現することが重要と考えています。

高レベル放射性廃棄物の地層処分とは？

原子力発電で出た廃液をガラス固化体にし、金属製容器→厚い粘土で人工的に覆い、地下300m以上の深い安定した岩盤に埋めることをいいます。

▶ガラス固化体を金属製の容器に入れ、粘土で包んだもの



原子力発電で出る
「高レベル放射性廃棄物」とは？

原子力発電で使い終わった燃料をリサイクルすると、95％は燃料として再利用できますが、残りの5％は廃液となります。この廃液をガラスと溶かし合わせて、ステンレス容器の中に固めた「ガラス固化体」のことを「高レベル放射性廃棄物」といいます。▲ガラス固化体



「高レベル放射性廃棄物」には核分裂する物質は含まれていません

高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）にはウランやプルトニウムなどの核分裂性物質はほとんど含まれていないため、**1999年に発生したJCO臨界事故のような状態になることはありません。**また、化学的に爆発を引き起こす物質や引火する物質も含んでおらず、**爆発するようなものでもありません。**

※臨界：核分裂反応が連鎖的に発生し、核分裂の回数が時間とともに変わらず継続している状態

これまでの発電で出た高レベル放射性廃棄物はどこでどのように保管されている？

50年以上、原子力発電を利用してきた日本には、すでに約2,500本のガラス固化体が存在しています。そのうちのほとんどは日本原燃株式会社（青森県六ヶ所村）に、一部は東海村にある日本原子力研究開発機構（JAEA）に貯蔵管理されています。

▶東海村のJAEAに貯蔵管理されているガラス固化体の保管セル（出典：動力炉・核燃料開発事業団東海事業所パンフレット「ガラス固化技術開発施設」）



赤澤経済産業大臣と 面会を行いました

文献調査申し入れ後、議員や市民の皆さんから多くのご意見をいただきました。文献調査を受け入れるか適切に判断するため、その意見を精査し、3つの要点としてまとめ、赤澤亮正経済産業大臣へ国の考え方を直接確認しました。



市長からの3つの意見に対する赤澤大臣の回答

Q なし崩し的に最終処分地にされてしまうのではないかと懸念

A 文献調査は処分地選定に直結するものではないことを改めて明確にお約束します。次の調査に進む際には、「都道府県知事及び市町村長の意見を聴き、これを尊重」することとしており、その意に反して先に進むことはありません。

Q 農業や観光業などへの風評被害の懸念

A 文献調査は机上での調査であり、放射性廃棄物が持ち込まれることはないことなど、風評被害が生じないよう、正しい情報を広く発信していきます。

Q 国やNUMOからの説明や第三者的な専門家の説明を聞く機会の確保

A 文献調査は、処分地選定に直結するものではなく、地域の地質などに関する文献・データを調査分析し、地域の皆様に情報提供させていただくことで、本事業についての議論をより一層深めていただくためのもので、対話活動の一環と考えています。国・NUMOから地域の方々に対し、継続的に丁寧にご説明をさせていただくことはもちろんのこと、第三者的な立場の専門家を招聘するなど、市民の皆様の理解を深められるよう、しっかり取り組んでいきます。

文献調査・地層処分に関する詳細・問い合わせ先

文献調査の間、随時、説明会を開催予定です。説明会の詳細は決定次第、市ホームページ、広報紙などでお知らせしていきます。

文献調査・地層処分の詳細

NUMO(原子力発電環境整備機構) ホームページ



文献調査
詳細



地層処分
詳細



よくある
質問

文献調査に関する 常陸大宮市の問い合わせ先

企画政策課 電話：52-1111



問い合わせ
フォーム

文献調査に関する最新情報は
市ホームページやひたまるアプリで
随時お知らせします



常陸大宮市
ホームページ



ひたまるアプリ
ダウンロード
(iPhone)



ひたまるアプリ
ダウンロード
(Android)